

修士論文（要旨）

2026 年 1 月

テモラウ文とテクレル文の互換性に関する一考察
—モダリティ・働きかけ性を手がかりに—

指導 茶谷 恭代 准教授

国際学研究科
国際学術専攻
言語教育実践研究学位プログラム
224J1006
馮 宸極

Master's Thesis (Abstract)

January 2026

A Study of the Interchangeability
between "V-te morau" and "V-te kureru" Constructions:
From the perspectives of Modality and Causativity

FENG CHENJI

224J1006

Master of Arts Program in Linguistics and Language Education

Master's Program in International Studies

International Graduate School of Advanced Studies

J. F. Oberlin University

Thesis Supervisor: Chatani Yasuyo

目次

1. 研究背景と目的.....	1
2. 先行研究.....	1
2.1 テモラウ文とテクレル文の互換性に関する研究.....	1
2.1.1 堀口（1987）	1
2.1.2 金（2019）	4
2.2 非恩恵性に関する研究.....	6
2.3 働きかけ性に関する研究.....	6
3. 研究対象と方法.....	8
4. テモラウ文とテクレル文の分析.....	8
4.1 テモラウ文とテクレル文のモダリティに関する考察.....	8
4.1.1 無標形式のモダリティ	9
4.1.2 依頼.....	10
4.1.3 推量.....	12
4.1.4 当為判断.....	14
4.1.5 命令.....	14
4.1.6 意志.....	15
4.2 テモラウ文の働きかけ性が互換性に及ぼす影響.....	17
4.3 「テモラエル」文とテクレル文の互換性に関する考察.....	18
4.4 テモラウ文の動作主に関する考察.....	20
5. まとめ.....	22
6. 今後の課題.....	23

参考文献

要旨

日本語の授受表現において、テモラウとテクレルは同一事態を異なる視点から対称的に表し得るとされてきたが、実際の日本語使用においては、両文型が置き換えられない例も少なくない。そこで、本稿は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』の実例に基づいて、モダリティと働きかけ性の観点からテモラウ文とテクレル文の互換性を考察した。その結果、以下の点が明らかになった。

①モダリティの観点からの考察：無標のモダリティでは、断定を表す「事実の提示」の用法において両者は置き換え可能であるが、「確信的な判断」の用法では、テクレル文をテモラウ文を可能形「もらえる」にすることで置き換えやすくなる。一方、スル形で、構文的に1人称の動作主をとる、意志を表すテモラウ文はテクレル文に置き換えることができない。

依頼のモダリティでは、「てくれないか」と「てもらえないか」およびその丁寧形は置き換えやすいが、「てくれないでしょうか」の実例が少なく、依頼表現として定着していない可能性が示された。また、「Vてください」をとるテモラウ文は勧め・助言として解釈され、テクレル文に置き換えられない。

推量のモダリティでは、受益者は第三者の場合はテクレル文をテモラウ文に置き換えられるが、受益者は話し手の場合は推量する必要がないため置き換えにくく、テモラウ文に推量のモダリティ形式が後続する条件として受益者が第三者に限られること、テモラウが可能形「もらえる」になることが明らかになった。

当為判断のモダリティでは、テクレル文に「べきだ」が後続する例が少ない理由として、「てくれればいい（のに）」などの表現がその一部を担っている可能性を指摘した。

命令形による命令のモダリティ、意志形による意志のモダリティについては、原則としてテモラウ文をテクレル文に置き換えることはできない。ただし、テクレル文の意志形に「～とする」が後続する場合には、両文型とも非文とはならないこと、またテクレル文のみ見られる非恩恵的用法はテモラウ文では置き換え不可能であることを確認した。

②働きかけ性の観点からの考察：働きかけ性を有するテモラウ文はいずれもテクレル文に置き換えることができない。一方、「テモラエル」文とテクレル文の互換においては、働きかけ性の有無にかかわらず、両者は互換可能であり、テクレル文への置き換えによって、働きかけ性を有しない「テモラウ」文と「テモラエル」文との差異は認められなくなる。また、働きかけ性と関わって、テモラウ文の動作主が機械や団体・組織以外の無情物が動作主となる例も確認されたものの、テモラウ文の動作主はテクレル文に比べて限定される傾向があることを明らかにした。

参考文献：

- 庵功雄(2011)「日本語教育から見たやりもらい表現」『日本語学』30(11), 明治書院, pp. 50-58
- 奥津敬一郎・徐昌華(1982)「「～てもらう」とそれに対応する中国語表現—“請”を中心に—」『日本語教育』46, 日本語教育学会, pp. 92-104
- 金秀榮(2019)「授受の補助動詞「てくれる」と「てもらう」の使い分けに関する研究—構文的な観点を中心に—」『日語日文学〔日語日文学〕』84, 大韓日語日文学會〔大韓日語日文学会〕, pp. 135-151
- 崔柳美(2017)「補助動詞「～てくれる」の多義構造と派生関係」『言語科学論集』21, 東北大学大学院文学研究科言語科学専攻, pp. 55-68
- 遲皎潔(2010)「「～てもらえる」文の働きかけ性」『言語科学論集』14, 東北大学大学院文学研究科言語科学専攻, pp. 39-51
- 仁田義雄(1991a)『日本語のモダリティと人称』, ひつじ書房
- 仁田義雄(1991b)『日本語のヴォイスと他動性』, くろしお出版
- 仁田義雄(1997)『日本語文法研究序説—日本語の記述文法を目指して—』, くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編(2003)『現代日本語文法④』, くろしお出版
- 日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法②』, くろしお出版
- 堀口純子(1983)「授受表現にかかわる誤りの分析」『日本語教育』52, 日本語教育学会, pp. 91-103
- 堀口純子(1987)「「～テクレル」「～テモラウ」の互換性とムード的意味」『日本語学』6巻4号, 明治書院, pp. 59-72
- 前田直子(2021)「敬語表現と文法—授受動詞の用法を中心に—」『待遇コミュニケーション研究』18, 待遇コミュニケーション学会, pp. 52-67
- 正宗美根子(2001)「日本語の命令依頼表現について」『北陸大学紀要』24, 北陸大学, pp. 115-124
- 益岡隆志(2001)「日本語における授受動詞と恩恵性」『日本語学』4, 明治書院, pp. 26-32
- 山田敏弘(2004)『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法』, 明治書院